

点訳奉仕

目の不自由な方々に読書の機会を——
個人で、あるいはサークル活動を通して、点訳のボランティアをしている人々がいる。昭和五十六年に熊本市竜田町に住む主婦ら八人が集まってつくった「アンダンテ」はその一つ、毎週木曜日の午前中に集まり、点訳したものの読み合わせ並びに勉強会を行っている。「アンダンテ」とは、音楽用語で、「歩くくらいの速さで」という意味、会員も十八人に増え、文字通りボランティアの道を着実に歩いている。

また、栄養士さん達が催している「盲人のための料理教室」で使用するテキストを点訳するなど、精力的に活動している山鹿市の「れえる」などもある。
熊本市長嶺町の県立点字図書館には、現在九千九百二十四冊の点字訳蔵書があるが、そのうちの二割は、こうしたボランティア活動者の真心のこもった作品である。これらの点字書は、毎月十回程県内を巡回する「おとすれ号」等により、多くの方々に利用され、喜ばれている。



熊本県点字図書館

- 一点字図書および録音図書の貸出閲覧
- 二点字図書および録音図書の製作刊行
- 三点字の普及ならびに指導
- 四点字および朗読奉仕者の育成
- 五巡回貸出し（移動図書館）

毎週水曜日と祝祭日の翌日は休館日

熊本市長嶺町の身体障害者福祉センターの中にある県立点字図書館



書庫にある蔵書の2割はボランティアによる真心のこもった作品である。



「立ち止まることなく歩きつづけます」と地味ながら着実な活動続ける「アンダンテ」



活発な活動を続ける「れえる」は、昨年11月3万ページの点訳を達成